

『食物アレルギー診療ガイドライン 2021』第2刷、電子書籍における変更箇所

本書の第1刷において、記載内容に変更の必要が生じたので、第2刷、電子書籍では以下のように変更いたします。

2022年4月27日現在

◎第3章「食物アレルゲン」(p.29)

表 3-2「種子類の生物学的分類」について、以下のように変更します。

(変更前)

類 Clade	目 Order
バラ類 Rosids マメ群 Fabidae	マメ目 Fabales
	バラ目 Rosales
	ブナ目 Fagales
バラ類 Rosids アオイ群 Malvidae	ムクロジ目 Sapindales
	アオイ目 Malvales
キク類 Asterids	シソ目 Lamiales
	ツツジ目 Ericales
真正双子葉類 Eudicots	ヤマモガシ目 Proteales

(変更後)

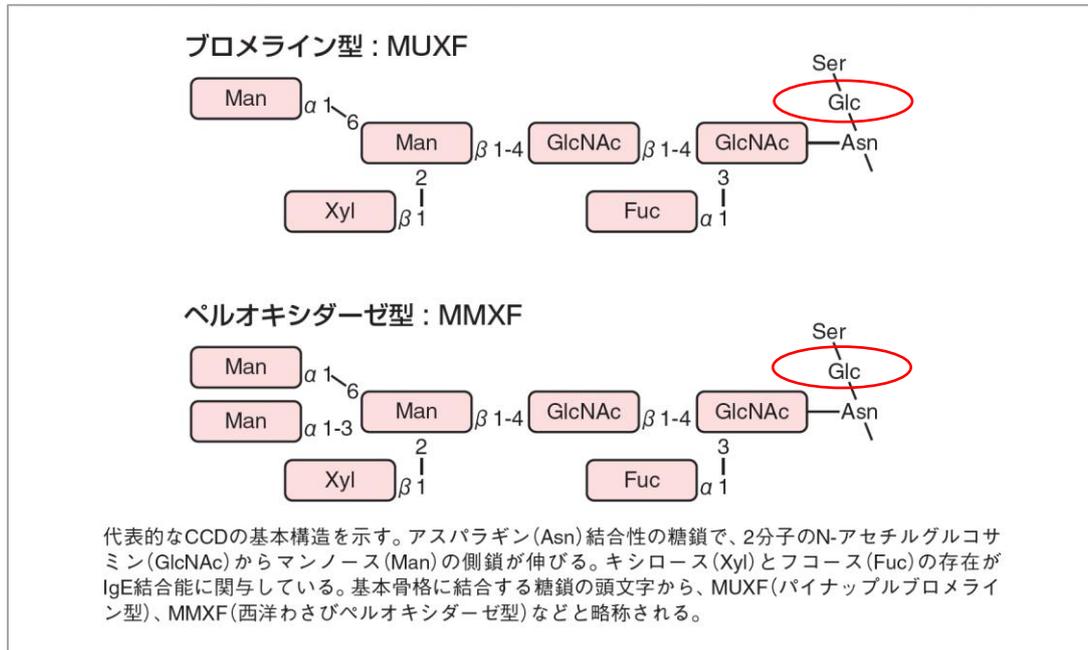
類 Clade	目 Order
バラ類 Rosids マメ類 Fabids	マメ目 Fabales
	バラ目 Rosales
	ブナ目 Fagales
バラ類 Rosids アオイ類 Malvids	ムクロジ目 Sapindales
	アオイ目 Malvales
キク類 Asterids シソ類 Lamiids	シソ目 Lamiales
	ツツジ目 Ericales
真正双子葉類 Eudicots	ヤマモガシ目 Proteales



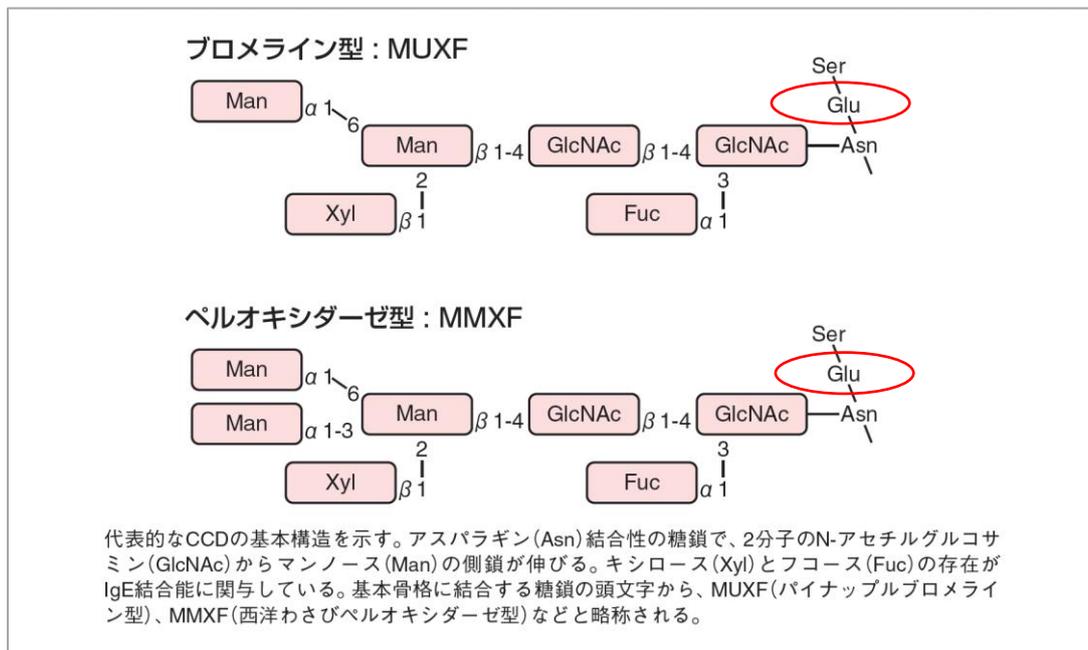
◎第3章「食物アレルギー」(p.38)

図 3-8「cross-reactive carbohydrate determinant(CCD)の構造」について、以下のように変更します。

(変更前)



(変更後)



◎第8章「診断と検査」(p.93) 本文5、6行目

製造会社業者が変更されたこと、およびキットのバージョンアップに伴い、以下のように変更します。

(変更前)マストイムノシステムズ IV®(日立化成)

↓

(変更後)マストイムノシステムズ IV®および V®(ミナリスメディカル)

◎第 12-10 章「魚類アレルギー」(p.185、p.187)

第 1 刷で引用された参考文献 15)(Kobayashi Y, et al: 2016)では「マグロ以外の魚種で背側のほうがパルブアルブミンの量が多い」ことを報告しており、本文で解説された「背側より腹側の筋肉に含有量が多い」ことについて述べられた以下の文献に変更します。

(変更前)

15)Kobayashi Y, Yang T, Yu CT, et al. Quantification of major allergen parvalbumin in 22 species of fish by SDS-PAGE. Food Chem. 2016;194:345-53.

↓

(変更後)

15)Lim DL, Neo KH, Goh DL, et al. Missing parvalbumin: Implications in diagnostic testing for tuna allergy. J Allergy Clin Immunol. 2005;115:874-5.

以上